

仮想基盤バックアップ機能導入

背景

今回のお客様は、半世紀以上の歴史をもち、家電から宇宙関連までの幅広い分野で優れた技術力を発揮している総合エンジニアリング企業です。グループ企業の各種製品、システムの設計・開発業務等で培った多様な技術に加え、最新の技術と設備を積極的に取り入れ、成長を続けています。

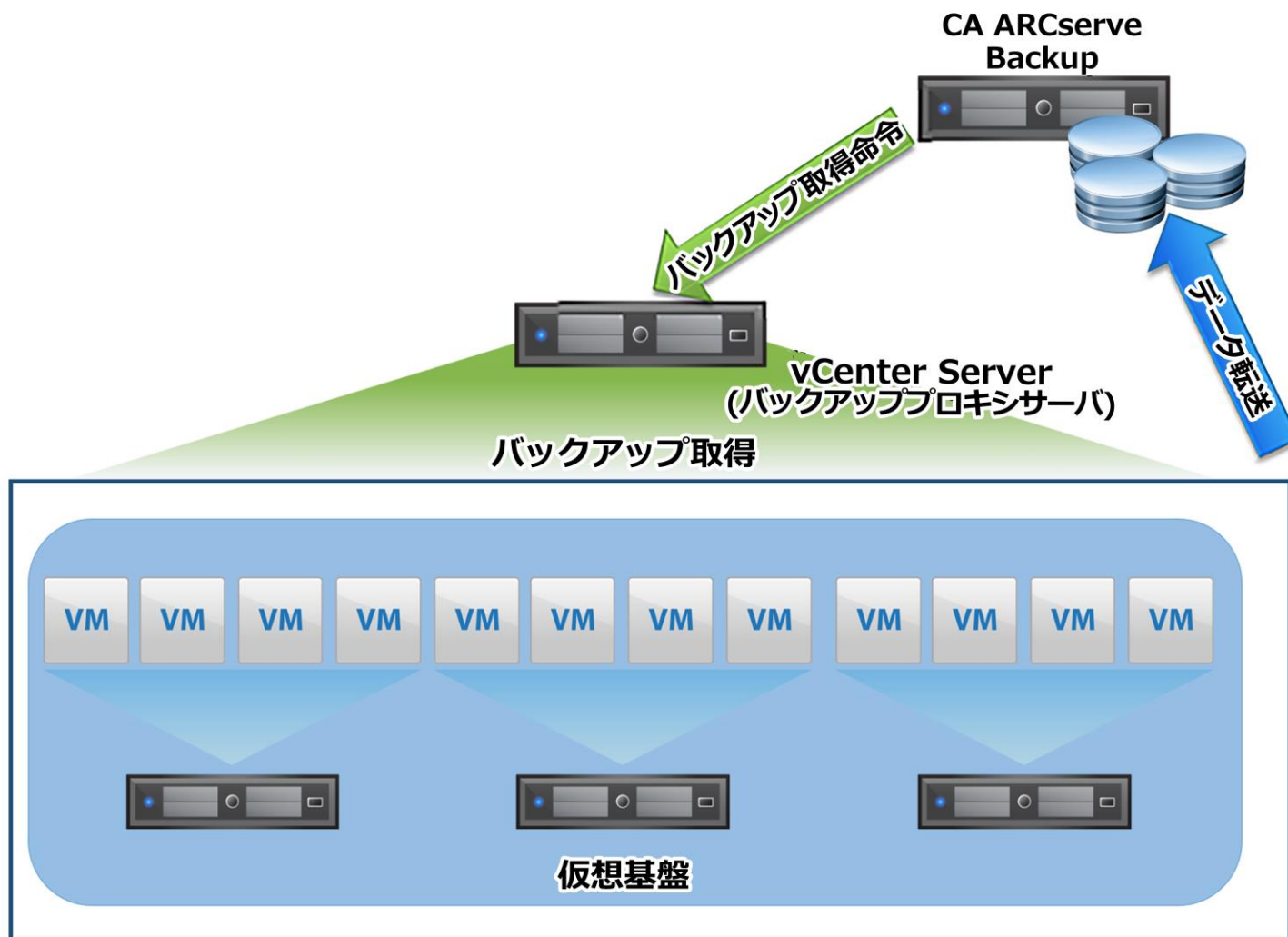
多種多様な事業を展開するということは、ビジネスモデルもさまざまであり、社内の業務システムも異なります。お客様は、拡大する業務にあわせて仮想環境に仮想マシンを追加し、社内の業務系サーバーだけでも100を超えています。サーバーを停止することはできません。しかし、業務系サーバーのデータを保護する仕組みがないため、サーバーに障害が発生した際の復旧手段がないというリスクを抱えていました。

そこで、既存仮想基盤バックアップ機能の導入を検討されていました。

概要

業種	電気機器
目的	仮想基盤バックアップ機能導入
作業規模	<ul style="list-style-type: none">既存サーバー ESXi5.5 : 8台 vCenter Server : 1台新規サーバー CA ARCserve Backup r16.5 SP1
作業ボリューム	2人月
作業内容	要件定義/機能設計/物理サーバー設置/構築/動作検証/ドキュメント作成

構成図



作業のポイント

本件では、CA ARCserve Backup r16.5 SP1を導入することで、仮想基盤のバックアップ機能を実現することができました。

バックアップ時間のスケジュール設計

お客様の環境では多数の仮想マシンが存在しているため、バックアップに時間を要してしまいます。IHSのノウハウを活かし、仮想基盤サーバー上で稼働している100台以上の業務サーバーに影響が発生せず、決められた時間にバックアップタスクを終了させるためのスケジュールを設計しました。

障害復旧時の運用コスト削減

CA ARCserve Backup機能を導入することで復旧作業も迅速に対応できるようになるため、障害復旧に係るコストを大幅に削減することが可能になります。

バックアップデータの容量削減

100台を超えるサーバーのバックアップには、当然大容量のデータの通信と大容量のディスクが必要となります。CA ARCserve Backupの、「重複排除機能」(重複するデータをバックアップ対象のストレージに持たない機能)を適用し、バックアップ時の容量が削減され、バックアップ時間の短縮をおこないました。

現場担当者による早急なシステム復旧を支援

障害発生から復旧までの操作手順書を作成しご提供することにより、現地の担当者が早急にシステム復旧できるようになりました。

弊社利用による効果

ノウハウの蓄積と提案力

IHSでは、仮想基盤サーバーに関するスキルやノウハウを蓄積しており仮想基盤サーバーと連携したバックアップソリューションに関するノウハウ、また、仮想基盤だけに限らないインフラシステムに関する総合的なスキルがあります。

お客様の環境では、多くの仮想基盤サーバーを抱えており、こういったバックアップソリューションを導入するべきか迷っていらっしゃいました。そこで、仮想環境の保護機能と重複を排除し差分更新を効率的に行う機能に優れるCA ARCserve Backupをご提案し、ご採用いただきました。既存業務システムへの影響を最低限に抑えるスケジュール設計を行い、必要なディスク容量を削減することによって、効率的なバックアップシステムを導入することができました。お客様のご要望を汲み取り、システムという形にご提供する提案力をご評価いただきました。

CA ARCserve Backupが障害復旧を簡単におこなえる機能を備えているとはいえ、100サーバーを超えるシステムのバックアップで何らかの障害が起きたとき、迅速な復旧をおこなうには、CA ARCserve Backupの操作以外に仮想環境や業務システムそのものについての情報や知識を持っている必要があります。現場担当者が使用するマニュアルにIHSが蓄積した情報やノウハウを加えてご提供することにより、障害の早期復旧とコストダウンをはかることができました。

作業内容の詳細

設計

1. 基本設計

- ハードウェア設計
- サーバー機器設計
- 共有ディスク設計
- ソフトウェア設計
- バックアップ機能設計

環境構築

1. バックアップ機能

- CA arcserve Backup r16.5 SP1

納品ドキュメント

- 基本設計書
- 詳細設計書
- 動作確認項目表兼結果報告書
- 運用手順書